

～素晴らしい一貫教育校を真鶴町民みんなの力で～ 第3回「教育を語り合う会」を開催しました！

当日の記録
(概要版)は
コチラから➡



真鶴町教育委員会では、「素晴らしい一貫教育校を真鶴町民みんなの力で」を合言葉に、将来の学校や教育について町民みんなで話し合う場として、「教育を語り合う会」を開催しています。最終回となる今年度第3回目は2月15日(土)、51名の方々の参加(地域の方々、幼・小・中教職員、小学生・中学生・高校生等)のもと、塩田指導主事の進行で行われました。塩田指導主事からは、「基本構想・基本計画(案)」の表題となっている「半島まるごと学校」という言葉に込められた意味や、3つの基本コンセプトについての説明があり、新しい学校への思いを共有したあとに、今回のワークショップのテーマである「小中一体型の学校になったら、こんなことができるといいな(自分がしたいこと、みんなで一緒にできること)」について語り合っていました。

それでは、今回のワークショップで話し合われた主な内容を紹介합니다。

ワークショップテーマ「小中一体型の学校になったら、こんなことができるといいな」(一部)

◆「学びの連続性(タテの関係)」

異学年交流

- ・上級生と町探検 ・たてわり遠足
- ・給食を一緒に食べる ・小学校から部活動 ・いっしょにあそぶ

学習

- ・上級生が下級生に教える授業
- ・異学年の子どもたちの共同研究
- ・学び残しをいつでも学び直せる
- ・学年問わず子どもが授業を選べる
- ・数年単位で1つの事を探究・極める

行事

- ・園・小・中・地域が一緒に運動会
- ・合同で発表会(歌、劇、コンサート)
- ・文化祭(地域の人を招いて)

生活

- ・約束を自分たちでつくる ・修学旅行を自分たちで計画・予約する
- ・クラブ活動を生徒が運営する

◆「学校と地域との連携強化(ヨコの関係)」

交流

- ・学校主催の祭り(子どもが運営)
- ・図書館を大きくして、イベントを地域ぐるみで ・地域の方も共に学ぶ

子どもの居場所

- ・心が休まる居場所(校舎内外)
- ・町民全体が見守り隊！
- ・空き教室等を利用して、「寺子屋」や「土曜教室」のような少人数の学習指導ができる

気軽に寄れる学校

- ・「地域と関わる」がコンセプトの場所
- ・卒業生がふらっと立ち寄れる場所
- ・放課後カフェ ・学校というだけではない場としての活用

防災

- ・全体での避難訓練 ・校内で宿泊体験(防災・避難の訓練)

◆「半島全体を学びの場とする新たな教育の創造(ナナメの関係)」

「人」を生かす

- ・町民授業(町に住む人から学んだり体験したりする) ・小学生から職場体験 ・大人も子どもたちから学べる場 ・一緒に働く授業

「環境・資源」を生かす

- ・町の課題を解決する学び(名産品、公園・都市整備、企業誘致、デッドスペースの利活用、ポスター作成) ・みんなで畑！→「地産地消」の給食を食べる ・真鶴かるたを文化に ・真鶴まち歩きプラン
- ・「美の基準」について年齢に合った学びを重ねる

つながり

- ・湯河原や小田原との交流
- ・オンラインでの学習(他校、海外)

最後の「教育を語り合う会」で瀬瀬教育長が語った『新しい学校でめざすこと』(概要)



「学校教育を社会教育のステージで語り合う」をコンセプトに行ってきた「教育を語り合う会」を、今回を一つの区切りとして最終回とさせていただきます。2023年7月から計6回開催し、延べ285名の方々にご参加いただきました。これまで熱心にご協議いただき、貴重なご意見をいただきました方々に心より御礼申し上げます。

新しい学校づくりの考え方の基盤となる「基本構想・基本計画」。その象徴的な言葉が「半島まるごと学校」です。これは、教育や学ぶ場は学校(校舎)だけでなく、町全体、半島全体が学校であるという考えのもとに成り立っています。別の見方をすると、半島全体が学校であれば、半島に住む町民全員が、子どもたちの先生であるということです。

私が考える一番理想としたい学校は、子どもたちがこの真鶴半島で成長するだけでなく、子どもと関わることによって大人たちも一緒に成長する学校であってほしいということです。教員も含めた「大人が子どもを教える、育てる」という従来の構図ではなく、「子どもたちとの関わりを通じて、大人も成長する」という構想のもとに展開されるものだと考えています。

新しい学校づくりは、まだ第1コーナーも回っていないくらいだと思います。これからの道のりは、まだまだ長い。それを乗り越えるためには、皆さまからのご支援、ご協力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

